

浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果（速報・第 67 報）

「浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定（以下「安全協定」という。）」に基づき、発電所から半径 10km 圏内で実施している発電所周辺の環境放射能調査についてお知らせします。

平成 28 年 8 月 31 日付けの前の報告以降、下記の測定値はすべて過去の変動幅（特に断りのない限り、東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故（以下「東電事故」という。）発生前の過去 10 年の最小値と最大値の範囲）の範囲内でした。

なお、東電事故以降平成 27 年度までの間の最小値と最大値の幅である「震災後の変動幅」を併記した項目があります。

記

1 測定結果（表中の括弧内の数値は検出下限値を表す）

(1) 降下物

（採取期間：2016/8/1～2016/8/31、採取地点：御前崎市池新田）

表 1-1

単位：Bq/m²

測定機関	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁴⁰ K	⁷ Be
監視センター	検出されず (0.072)	0.12 (0.063)	検出されず (1.4)	56.9 (1.9)
中部電力(株)	検出されず (0.057)	0.11 (0.051)	検出されず (0.61)	66.9 (2.2)
過去の変動幅	検出されず	検出されず～ 0.12	(自然放射性核種)	

< 参考 - 1 >

原子力規制庁委託の環境放射能水準調査の降下物

（採取期間：2016/8/1～2016/8/31、採取地点：静岡市葵区）

表 1-2

単位：Bq/m²

測定機関	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁴⁰ K	⁷ Be
監視センター	検出されず (0.059)	0.037 (0.027)	検出されず (1.3)	120 (2.5)

(2) 浮遊塵

表 2 (採取期間：2016/08/01～2016/08/31)

単位：mBq/m³

採取場所	測定機関	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
御前崎市 白砂	監視センター	検出されず (0.011)	検出されず (0.010)	2.42 (0.19)
御前崎市 中町	中部電力(株)	検出されず (0.012)	検出されず (0.0091)	2.38 (0.21)
御前崎市 平場	監視センター	検出されず (0.012)	検出されず (0.011)	2.70 (0.21)
御前崎市 白羽小学校	中部電力(株)	検出されず (0.010)	検出されず (0.0083)	2.48 (0.20)
牧之原市 地頭方小学校	中部電力(株)	検出されず (0.011)	検出されず (0.011)	3.06 (0.26)
過去の変動幅*		検出されず	検出されず	
震災後の変動幅		検出されず～ 7.78	検出されず～ 8.21	(自然放射性核種)

※ 平成 14～22 年度の測定値の最小～最大の範囲です。

2 検出された放射能の影響について

(1) 降下物

¹³⁷Cs が検出されましたが、過去の変動幅の範囲内でした。測定結果から平成 28 年度の被ばく量の増加は、0.0080mSv/年* (建屋による線量の低減を考慮した場合は 0.0048mSv/年) 程度と推定され、公衆の年間被ばく線量限度 1mSv/年と比較して十分に低く、健康への影響を心配するレベルではありません。

なお、原子力規制庁委託の環境放射能水準調査で採取した静岡市の降下物についても、¹³⁷Cs が検出されましたが、放射性セシウムは東電事故の影響が最も大きかった平成 23 年 3 月と比較して 1/15000 程度にまで減少しています。測定結果から平成 28 年度の被ばく量の増加は、0.0073mSv/年* (建屋による線量の低減を考慮した場合は 0.0044mSv/年) 程度と推定され、公衆の年間被ばく線量限度 1mSv/年と比較して十分に低く、健康への影響を心配するレベルではありません。

※ 平成 23 年 3 月以降平成 28 年 8 月までの月間降下量の測定結果を基に、ICRU Report 53 で定められている換算係数を用いて算出しました。

(2) 浮遊塵

検出されませんでした。